



SSH News Scope vol. 3 ～ニュースから探究を始めよう～

今年度から不定期で、SSH 委員が気になるニュースを新聞やネット記事などから見つけて皆さまにお伝えします。身近な「なぜ」から探究は始まります。日々のニュースには科学や社会について考えるきっかけがたくさんあります。皆さんもニュースをきっかけに「なぜ」を見つけて一緒に考えてみませんか。

vol. 3 は 3 年 7 組 成井 琴子さん、原田 美月さんからお届けします！

✿「AI 数学への脅威」宣言✿

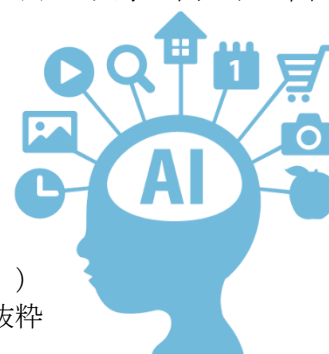
人工知能(AI)は数学にとって脅威だ——。数学の証明などに AI を安易に利用することに警鐘をならす「ライデン宣言」を、欧米の数学者や研究者のグループが発表した。テック企業が参画する弊害や、ブログなど審査を経ない成果発表への懸念などを示した。宣言に対しては、日本学術会議が加盟する国際数学連合などが支持を表明している。

米英などの研究者 16 人のグループが 6 月に発表した。2025 年にオランダ・ライデン大学で開かれた国際会議が発端となり、宣言の賛同者は研究者ら 2800 人を超える。

宣言では、AI 技術が数学研究に対して既に変革をもたらしていると評価。

数学自体が AI 開発に貢献していることも強調した。

一方で、AI が自動的に数学の難問を証明した、といったような議論については「正しい数学的証明と区別することが難しく、論文などの審査システムに大きな圧力となる」と指摘した。



朝日新聞 (2026 年 7 月 12 日付 朝刊・総合 4 面『「AI 数学への脅威」宣言』)
より抜粋

皆さんは、Principia の研究に AI を利用していますか？

この記事では、AI による成果を十分な議論や審査をすることなく、自らの成果物として発表することへの危機感が示されています。また AI の利用による研究を媒体としたコミュニティの衰退、研究への商業的技術の流入の危険性も特筆すべきポイントとして書かれています。

私たちにどんどん身近になってきている AI ですが、研究分野への活用には、危険が伴うことも忘れてはいけないと思います。私たちは、Principia で数学的分野だけでなく、様々な研究を行っています。今後、AI の発展に伴って、AI を研究に利用する機会が増えると思います。しかし、AI の出した結果を採用するかどうかは、私たちの判断に委ねられ続けます。

たとえ AI を利用したとしても、その研究の責任者、主導者は私たち人間であるということを、忘れないことが重要であると考えます。

3 年 7 組 成井 琴子、原田 美月

【プロフィール】

成井 琴子さん(左)

SuperPrincipia を受講しており、「飴と医療の甘い関係!!～口腔再現モデルによる疎水性物質を用いた溶解制御の研究～」を研究中。昨年度からグループの仲間とたくさんの発表会・コンクールに参加。今夏にはシンガポールで行われたグローバルリンクシンガポール 2026 に参加し、英語での発表、質疑応答にも挑戦。

原田 美月さん(右)

Principia II では麻布大学獣医学部所属で「猫と犬の運動特性の違いが背中の骨(腰椎)に反映されているか？」を研究。昨年度末に麻布大学が主催する「いのちと共生の研究プログラム第 4 回研究成果発表会」に参加。

